



0 0 0 1 0 0

上部消化管内視鏡検査 説明・同意書

ID 氏名 様

胃内視鏡検査(胃カメラ)は咽頭・食道・胃・十二指腸にできる病気(ポリープ・がん・炎症など)を発見し、適切な治療方法を選択するために行います。

鼻(またはのど)に麻酔をかけて、内視鏡を鼻(または口)から挿入し消化管を観察します。検査は約5分程度で終了しますが、病変が見つかり詳細な観察が必要な際にはもう少し時間がかかる場合もあります。

検査の危険性

1) 何らかの病変を疑う所見が見られた場合、診断を確定するために組織検査(生検)を行います。そのとき多少出血を伴います。普通はすぐに止血しますが、ごくまれに下血・吐血をきたすことが報告されています。特に心臓や脳血管などの病気で血液を固まりにくくする薬を内服中の方は、出血が続く可能性があります。また、まれですが内視鏡による粘膜損傷やひどい場合は裂傷も報告されています。

2) 前処置による偶発症・合併症

- ① 鼻・のどなどの麻酔(キシロカイン)のアレルギー
- ② 鎮静剤による呼吸抑制(呼吸が弱くなる)や健忘症状(その時の記憶がなくなる)
- ③ 経鼻内視鏡の場合は、鼻出血を起こすおそれがあります。鼻腔が狭く、鼻からの挿入が難しいと思われる場合、口からの挿入に変更します。

3) 検査による偶発症・合併症

検査は細心の注意を払い慎重に行いますが、内視鏡による危険性として次の様なことが報告されています。

- 1) 出血:0.1%未満(約1,000人に1人未満)
- 2) 穿孔(胃に穴があくこと):0.01%未満(約10,000人に1人未満)
- 3) ショック:0.001%未満(約100,000人に1人未満)

このような場合には、止血処理・輸血・外科的手術あるいは蘇生などの緊急処理が必要になることがあります。

検査全体での死亡率は0.001%未満(約100,000人に1人未満)と報告されています。当院では上記の危険性に細心の注意をはらいながら胃カメラ検査を行いますが、何らかの偶発症が起こった際には責任をもって対処させていただきます。

医療法人はるか 聖ヨハネ病院
(093)663-5100
院長 植村佑介

令和 年 月 日

上記の内容の説明を受け同意いたしました。

説明医師 _____

患者様氏名 _____

* 患者様ご本人がサインできない場合はご家族氏名欄に記入して下さい。

ご家族氏名 _____ 続柄 _____